

小学生版

あたらしい児童書 NO. 328 2026. 10. 8

遠軽町図書館
遠軽町大通南4丁目
TEL42-3632
FAX49-2102

本が見あたらないときは、かかりの人に聞いてね。予約もできます。新しい本は他にもあります。
小初は1・2年、小中は3・4年、小上は5・6年をめやすにしてください。

『ねこのおしごと』 星野 萌／作

・「いま、しごとちゅうだから」どれどれ、一体ねこはどんなおしごとをしているのかしら？ みんなが知っているおしごとと、「えっ？」と意外なおしごとと、ねこはねこなり、いっしょうけんめい…。ねこのおしごとのおはなし。（小初）



『ぼくたち、ともだち?』 高森 美由紀／作

・山の学校は、どうぶつたちで今日もにぎやか。ところが、こわれたブランコをめぐって、小さいどうぶつと大きいどうぶつが大げんか! どちらの言い分を通すか決めるため、ウサギとクマは相撲で対決することに…。(小初)



『ありがとうをはんぶんこ』 工藤 純子／作

・いつも隣の席のあおくんを助けてあげている、小1のゆうき。ある日、学校の帰り道で1円玉を拾った。交番に届けなくてはと思うけど、勇気が出ない。そこへあおくんが通りかかり…。困った時は助け合う、勇気をもらえる物語。（小初）



『エゾリスのちゅぷ』 もとした いづみ／文

・陽気でおちょこちよいだけど、木のぼりが得意なエゾリスのちゅぷ。おかあさんから「たっしゃでね!」と送り出され、ひとりだちして森で生きていくことに…。北の森でくりひろげられる、動物たちのちいさなおはなし。（小初）



『ルビねことドラゴンの風』 野中 柊／作

・本にはさまっていた、謎めいた手紙を書いたのは、なんと物語の主人公! ドラゴンに乗って活躍する、ねこのテイルです。そのねこに会うために、ルビは不思議な旅に出て…。(小)



『しかたなし日記』 市川 宣子／作

・学校で、家族との生活で、友だち関係で、わたしたちの毎日は「しかたない」がいっぱい! しかたないってどういう意味? しかたないの反対は? そんな「しかたない」を、日記に書き出してみたら…。心が軽くなる本。（小中）



『こわい話の時間です 左肩のともだち』 井上 雅彦／編

・子どものための本格的なホラーアンソロジー。柴田勝家「元いきもの屋」、背筋「鬼さんがくる」、高瀬美恵「左肩のともだち」など、9人の作家による書き下ろし短編を収録する。（小中）



『女の子がハッピーに生きるための3つのこと』 福木 はる／著

・若くてパワフルで愛情たっぷりの母・愛海と、しっかり者の娘・かふう。かふうは愛海に、暮らしをもっとハッピーにするために車の免許をとってほしいと頼むが…。沖縄を舞台に繰り広げられる、母娘の免許取得をめぐる大冒険。(小中、小上)



『ベック ぼくたちの小川をすくえ!』 アンソニー・マゴーワン／作

・町なかをぬけて流れる小川、ベック。おじいちゃんに連れていかれたその日から、カイルの驚きと興奮に満ちた冒険が始まる! カーネギー賞作家アンソニー・マゴーワンの原風景となった町の小川の物語。(小上)



『もりもりの出版社』

まはら 三桃・工藤 純子・廣嶋 玲子・菅野 雪虫・濱野 京子／著

・会社見学で、大手出版社を訪れたユリアたち。出迎えてくれたのは、アニメの主人公のコスプレをしたお兄さんと、白いワンピースのお姉さんで…。児童文学のトップランナー5人が描く競作リレー小説。スペシャル座談会も収録。(小上)



『大好きだっていえるまで』 ヘザー・スミス／作

・ママが帰ってこなくなって4か月。12歳と11歳の兄妹ふたり、電気のとめられた屋根裏部屋で過ごした。伯父さんの家に引き取られたけれど…。心がふるえる家族の物語。(小上)



『バードボーイ』 キャサリン・ブルートン／作

・母を亡くした少年ウィルは、山岳救助隊として働く無口なイアンおじさんのもとで暮らすことに。アフガニスタンからきた難民の少年、オマールと一緒に登った山で、絶滅危惧種の鳥、ミサゴの巣を発見するが…。(小中)



『ブレイキン!ダンスでつながるぼくら』 あさだ りん／作

・ブレイキンが大好きなジョーは、引っ越し先のブレイキン教室で、同じ学年のケイトに出会う。初めはぶつかり合ったけど、すぐに打ち解けて、ふたりは仲良くなった。そんなとき、アメリカから来た少女・リズがあらわれて…。(小中)



『こどもたちのための最悪事典』 林 木林／作

・最悪の結末を迎えるのには、必ず始まりの理由がある…。よりよい人生をおくるために知っておきたい大切なことを、最悪な結末のお話を読んで学べる。「交換しないか」「嘘つき男と正直すぎ男」など全11編を収録。(小中、小上、中)



『東京おしゃれ魔女ありす』 天川 栄人／作

・「お困りですか?おしゃれ魔女ありすがお助けします」という広告に誘われて、悩める若者たちが、ド派手なファッションに身を包んだ魔女ありすのもとを訪れる。しかし、ありすは彼らの話を聞くと「何それ、ダッサ」と言って…。(小上、中)

